一般社団法人
日本カプセル内視鏡学会
The Japanese Association for Capsule Endoscopy

■ 編集・発行
一般社団法人日本カプセル内視鏡学会
〒113-0033東京都文京区本郷3-3-11 NCKビル5階
TEL:03-5844-6341　FAX:03-5840-6130
E-mail:capsule@the-jace.org　URL:https://the-jace.org/

日本カプセル内視鏡学会ニュースレター

# NEWSLETTER

2017
Vol.12

CONTENTS

● 巻頭言:カプセル内視鏡への期待 ……1
● 第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会開催に向けて ……3
● 第11回学術集会(GIW)開催概要 ……3
● 厳選論文紹介 ― 今年度の学会総会、学術誌から ― ……4
● 施設紹介 獨協医科大学 消化器内科、医療情報センター ……6
● 小腸・大腸カプセル内視鏡セミナーの開催報告と今後の予定 ……8
● 認定審査結果報告および今後の認定医申請スケジュール ……10
● 日本カプセル内視鏡学会 入会案内 ……15
● 編集後記 ……15

## カプセル内視鏡への期待

**坂本 長逸**
日本医科大学名誉教授
医療法人社団行徳会理事長

カプセル内視鏡がギブンイメージング社によって2001年に開発され、日本では世界に比べ遅れたものの、2007年10月には初代のPillCam SBが保険収載された。早いものである、本邦で小腸カプセル内視鏡が臨床現場に登場してもう9年が経過したことになる。小腸については当初はクローン病や小腸狭窄を疑う患者へは使用禁忌とされた。従って、当初は小腸出血を疑う原因不明消化管出血に対する使用がほとんどであった。しかし、今日では狭窄を疑う病変や確立したクローン病であっても、のちに触れるがJACEメンバーの努力により消化管開通性を確認するパテンシーカプセルが利用可能となり、小腸疾患についてはカプセル内視鏡が禁忌となる疾患は無くなった。小腸カプセルも進歩し、SB2からSB3へと進化し、1秒あたりの撮影も撮影数調整機能がつき2から6フレームが可能となっている。小腸カプセル内視鏡に続いて大腸カプセル内視鏡も2014年には保険収載されて臨床現場に登場した。小腸カプセル内視鏡が登場した時同様に、大腸カプセル内視鏡も使用に関する縛りが今日ではまだ少し残っているものの、今では小腸大腸がこれまでの内視鏡検査とは全く異なる概念の内視鏡により可能となった時代を迎えていると言える。カプセル内視鏡が登場してほぼ10年で、全くコンセプトの異なる内視鏡検査が今や可能な時代を迎えていると言っても過言ではない。

このように時代が大きく変わり始めてほぼ10年が経過しているが、カプセル内視鏡の臨床応用に果たしたJACEの役割は大きい。小腸カプセル内視鏡が保険収載された翌年の2008年10月には第1回JACE学術集会が開催されたが、筆者がその第1回学術集会を「出血を主訴とした小腸潰瘍性病変の診断」というテーマで開催した。学術集会に先立ち、各施

設にアンケート調査し、出血責任病変診断率や病変の種類について会長講演の中で報告したことを今でも覚えている。私はその講演の中で、アンケート調査ではなく、臨床研究の重要性とデータregistryの確立を訴えた。本年の第9回まで、各会長先生はそれぞれカプセル内視鏡が切り開く未来を主要なテーマとして会を成功させ、JACEも臨床研究を通じてカプセル内視鏡の臨床応用の拡大を目指してきた。これら臨床研究の成否に、カプセル内視鏡利用拡大とそれを通じた消化管臨床の新たな展開が大きく依存するものと思われるため、現在進行中の大規模試験について若干紹介したい。

第1回JACE学術集会で提案したregistryはJACEデータベース作成委員会が中心となり、実際に30施設を超える先生方の参加によってregistryがスタートし、同時に厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）事業による「原因不明消化管出血のリスク要因探索と治療指針作成のための疫学研究」がスタートした。現在論文執筆中であるが、実際には厚労科研費は1年で中断となり、registryの継続は困難となっている。JACEの予算によっても継続は困難であり、今後の継続は課題として残っているが、JACEの活動や厚労科研費取得によって「原因不明消化管出血」という疾患概念が定着し、このカテゴリーに入る疾患にはカプセル内視鏡検査が必要であるという医学的常識を確立させた。

先にも触れたが、カプセル内視鏡は現在、原因不明消化管出血だけが適応疾患ではなく、クローン病を含むすべての小腸疾患に対して適応拡大されている。しかし、クローン病や小腸狭窄を疑う病変に対しては、小腸開通性を確認するパテンシーカプセルを行う必要がある。JACEは「パテンシーカプセルの適正使用、安全性、有効性に関する多施設共同前向き研究」（JACE appropriate use survey for patency capusule study, J-POP Study）を2012年から2015年にかけて行い、パテンシーカプセルの有効性、安全性に関する1,100例にも及ぶデータを解析し、パテンシーカプセルの適正使用方法を明らかにしている。今後解析データが論文化され、結果が一層臨床現場に反映されていくものと思われる。

このように、すべての小腸疾患へカプセル内視鏡の適応を拡大したが、大腸についても、小腸での経験を生かして、大腸カプセル内視鏡がもっと容易に臨床現場で利用できる環境を作る必要があろう。大腸癌スクリーニング及び確立した大腸疾患、例えば炎症性腸疾患の経過観察には極めて大腸カプセル内視鏡が有効と思われ、大腸カプセル内視鏡の臨床利用の拡大により便潜血陽性者の2次検診受診率向上も期待できるため、臨床試験による有効性、安全性、利便性に関するエビデンスの蓄積がさらに必要と思われる。このような目的のため、JACEでは、「大腸カプセル内視鏡の有効性・安全性・受容性に関する多施設共同前向き研究」（Japan multicenter prospective study of usefulness, safety, and compliance of colon capsule endoscopy,ColoCam-J study）を行い、大腸カプセル内視鏡の全大腸観察率を基により良い前処置・ブースター法を選択し、大腸内視鏡所見と対比することにより大腸カプセル内視鏡の有用性を検証する臨床試験を開始する。対象症例は1,000例を予定しており、有効性のみならず安全性、受容性も検証する本格的臨床試験であり、本試験のデータ解析を通じて大腸カプセル内視鏡の利便性、安全性、有効性が広く認知され、大腸カプセル内視鏡臨床利用の拡大につながることが期待される。このように、わずか10年でカプセル内視鏡は消化管臨床の考え方を大きく変える診断手技へと成長しており、今後の展開がますます期待される。

# 第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会開催に向けて

日本カプセル内視鏡学会 認定制度委員会委員長
弘前大学医学部附属病院 病院長
**福田 眞作**

このたび第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会を2017年2月18日(土)～19日(日)に名古屋国際会議場(愛知)において開催させていただくことになりました。

第10回学術集会はGI week 2017(2月17日(金)から19日(日))として、「New Frontiers in Gastroenterology」をテーマとした第13回日本消化管学会総会学術集会(会長:名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学教授　城卓志先生)と「H. pylori 全除菌後の消化管病態機能研究」をテーマとした第49回胃病態機能研究会(会長:兵庫医科大学内科学 消化管科 主任教授 三輪洋人先生)と合同で開催されます。消化管学会終了後の2月18日(土)の夕方に、胃病態機能研究会と合同でイブニングセミナーおよび懇親会を開催いたしますので、こちらにもどうぞご参加ください。

学術集会のテーマは、「カプセル内視鏡の更なる普及を目指して」とさせていただきました。主題演題として、2つのシンポジウム「大腸カプセル内視鏡の更なる普及に向けた課題」「炎症性腸疾患におけるカプセル内視鏡の新展開」とワークショップ「読影支援技師からの報告～現状と課題～」を、特別パネルセッションとして「比較的稀な疾患のカプセル内視鏡像」を企画いたしました。また、読影支援技師の皆様にも楽しんでいただけるような企画(目指せ！カプセル内視鏡クイズ王)も準備中です。特別講演は「本邦におけるカプセル内視鏡の開発状況について」大阪医科大学の樋口和秀先生と慶應義塾大学の細江直樹先生にご講演いただきます。

また、学会と並行して読影トレーニング委員会による「認定医・指導医および読影支援技師の更新対象者向けセミナー」が開催され、その受講証明書は更新申請の際に利用可能となります。

第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会は、以上のように大変盛りだくさんで興味深い内容になったものと思います。第10回という節目の学術集会でもありますので、多くの方々にご参加いただき、カプセル内視鏡の更なる普及を目指して活発な討論がなされることを、心から期待しております。

## 第11回学術集会(GIW)開催概要

### 第11回日本カプセル内視鏡学会学術集会

**会　期** 2018年2月10日(土)～2月11日(日)

**会　場** 京王プラザホテル　〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1　Tel. 03-3344-0111

**会　長** 樋口 和秀(大阪医科大学附属病院 副院長、消化器内科 教授)

**合同開催**

**GI Week**
2月9日(金)～11日(日)

| | |
|---|---|
| 9日(金)～10日(土) | 第14回日本消化管学会総会学術集会 |
| 10日(土)～11日(日) | 第11回日本カプセル内視鏡学会学術集会 |
| 10日(土)～11日(日) | 第50回胃病態機能研究会 |

運営事務局 (株)勁草書房　コミュニケーション事業部 内
〒112-0005東京都文京区水道2-1-1　TEL:03-3814-7112　Fax:03-3814-6904

# 厳選演題・論文紹介 ― 今年度の学会総会、学術誌から ―

**日本カプセル内視鏡学会情報委員会（委員長：後藤秀実）実務委員の5名の先生（中村正直、能田貞治、笹井貴子、松本啓志、結城崇史）に、最近、学会総会、学術誌で発表されたカプセル内視鏡関連の演題、論文から１演題を厳選し、内容を紹介して頂いた。**

選者 **中村 正直**
名古屋大学大学院 医学系研究科（消化器内科学）

論文 第102回日本消化器病学会総会学術集会(2016/4)
WS8-8 **便潜血検査は低用量アスピリン小腸粘膜傷害をカプセル内視鏡検査前に評価できるか？**

**遠藤 宏樹** ら
横浜市立大学

選評 低用量アスピリン(LDA)による小腸粘膜傷害が起こることがわかってきたが、消化管出血や狭窄で気づくことがあるため、早期発見ができないか便潜血をその候補として調べた。便潜血検査とカプセル内視鏡による全小腸観察を共に行った156例で解析したところ、なんらかの小腸粘膜傷害に対する便潜血検査の感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率は各々53%、45%、61%、37%であったが、下部小腸に限った潰瘍所見の解析では各々59%、48%、19%、85%であった。LDA内服患者に対する便潜血検査では感度特異度は高くないものの、潰瘍性病変に対する陰性的中率は高く、便潜血陰性であれば小腸潰瘍を鑑別できる可能性を示唆した。LDAを定期内服している患者は多い一方で、LDA小腸粘膜傷害に対するハイリスクグループはわかっていない。便潜血検査がscreeningの役割を担うことができればその後に精査を行うカプセル内視鏡の位置づけもおのずと決まる。LDA腸溶錠が用いられることが多く、制酸剤との合剤も導入される現代において、小腸粘膜傷害についての検討は遅れておりその発展が期待される。

選者 **能田 貞治**
大阪医科大学 第二内科

論文 第24回日本消化器関連学会週間JDDW2016(2016/11)
W1-4 **放射線性腸炎検出における カプセル内視鏡による分類の臨床的有用性**

**佐川 保** 他
北海道がんセンター

本演題では、放射線性腸炎に対する小腸カプセル内視鏡（CE）の有用性が報告されている。小腸造影検査、パテンシーカプセル等で滞留のリスクを除外された症例についてCEを行い、放射線性腸炎との関連性についてSaurinらの分類を改変し、P0：関連性なし、P1：可能性あり、P2：強い関連性、に分類されている。14症例が対象で、年齢中央値66歳、照射線量中央値55Gy、6例で全骨盤照射、6例で化学療法が併用されていた。CEの結果は、P0/P1/P2 ：2例/5例/7例で、Congested mucosaとYellow villiが高頻度にみられる異常所見であった。尚、盲腸到達率が71.4%（10/14）で、滞留例はなかった。CE後の観察期間中央値1344日において、P2：7例中3例においてイレウス症状が出現した。

近年放射線治療を受ける患者は多く、放射線性腸炎を診療する機会が増加している。CE所見からイレウスのリスクが予見できれば、その後の治療方針に寄与するものと考えられ、本演題を紹介させて頂いた。今後の更なる症例の集積・検討に期待される。

選者 **笹井 貴子**
獨協医科大学 消化器内科

論文 Efficacy of Repeat Review with Flexible Spectral Imaging Color Enhancement in Patients with no Findings by Capsule Endoscopy
**カプセル内視鏡で所見のない患者における FICEでの再読影の有用性**

Yuka Minami-Kobayashi, Atsuo Yamada, Hirotsugu Watabe, Hirobumi Suzuki, Yoshihiro Hirata, Yutaka Yamaji, Haruhiko Yoshida, Kazuhiko Koike
Saudi J Gastroenterol 22(5): 385-390, 2016

選評 小腸カプセル内視鏡（CE）での潰瘍性病変や血管拡張の描出にFICE ch.1（F1）の有用性が報告され

ている。この研究では、標準モードで所見のない患者においてF1で追加所見が検出されるかどうかを評価した。原因不明の消化管出血(OGIB)でCEを受け標準モード(first review)で小腸に病変が検出されなかった合計52例の患者(年齢60.1±15.3歳、男性30例)が登録された。2名の熟練した内視鏡医がそれぞれF1でCEビデオを再読影(second review)し、潰瘍、びらん、アフタ、血管拡張、腫瘍、出血を有意と定義した。Second reviewで増加した所見は2名のreviewerによってF1と標準モードでチェック(third review)され、最終的にthird reviewで2名の合意によって所見を確定した。

**結果**:F1はovert OGIB患者3人に5か所の有意な病変(びらん3か所、アフタ1カ所、血管拡張1カ所)を検出した。非特異的所見として、F1は12か所の発赤粘膜と16カ所の発赤点を検出した。29患者71病変は偽陽性と判断された。結論:F1は標準モードで所見のなかった患者の数%に有意な追加所見を認めたが、それ以上に多くの偽陽性所見を示した。最初の読影で所見のない患者に対するF1での再読影による所見追加効果は限られている。

---

**選者** **松本 啓志**
川崎医科大学 消化管内科

**論文** Small-bowel capsule endoscopy with panoramic view: results of the first multicenter, observational study (with videos).

Gian Eugenio Tontini, et al.
Gastrointest Endosc. 2016 Aug 8. pii: S0016-5107(16)30448-5. doi: 10.1016/j.gie.2016.07.063.

**選評** 本論文は、新しい小腸カプセル内視鏡(CapspCam SV1, Capso-Vision, Saratoga, Calf) を使用した多施設観察研究である。この小腸カプセル内視鏡の最大の特徴は、4つのカメラを搭載しており、360度パノラマ観察でできることである。長さ31mm、重さ4g、バッテリーは15時間以上、フレームは12-20 (3-5 per camera)のデバイスである。本論文はWeb上で非常に興味深いビデオ映像も見れます。ただし、本研究は従来型の一方向型観察の小腸カプセル内視鏡との比較検討を行っていないため、今後の検討結果に注目したい。最近、大腸内視鏡の世界でも、3画面パノラマ観察(330°)が可能である広角内視鏡(Fuse)も販売されており、より見逃しのない質の高い検査への工夫が行われている。このパノラマ観察は小腸よりも大腸カプセルの方がより効果を発揮できるのではないかなど、いろいろ想像力を書きたてられる論文である。

---

**選者** **結城 崇史**
松江赤十字病院 消化器内科

**論文** 2016年11月4日　JDDW 2016
第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会
PD9-8　**クローン病に対する カプセル内視鏡を中心としたモニタリング**

**大森 鉄平**
東京女子医大 消化器内科

**選評** カプセル内視鏡(CE)では、クローン病(CD)の小腸病変を観察できるが、滞留のリスクを伴う。パテンシーカプセル(PC)が保険収載されてからCEを行ったCD 140例中、複数回CEを施行し、小腸病変のモニタリングを行った23例について検討され、全検査でPCによる開通性評価を得ていて、CEの滞留を認めず、全小腸の観察ができていた。さらにCEによるモニタリング中に14/23例で治療介入され、臨床症状で判断できない小腸粘膜の観察での治療効果判定の有用性を報告されていた。またJDDW2016のサテライトシンポジウム86にて、PCを行った症例を集積したJ-POP Studyに登録された1096例の解析結果が報告され、PCの開通性評価を適切に行うことによって、CDを含む狭窄が疑われる症例に対しても安全にCEを行うことができる可能性が示されていた。CDに対しても、経過観察を中心にCEが有用である可能性が示されていた。CDは長期に小腸を含めた経過観察が必要な疾患である。PCを組み合わせたCEをうまく利用することで、精度が高く、患者負担が少ないCD経過観察方法の確立が期待される。

# 施設紹介（第4回）

## 獨協医科大学 消化器内科、医療情報センター

笹井 貴子[1)]、中村 哲也[2)]、平石 秀幸[1)]
獨協医科大学 消化器内科[1)]、医療情報センター[2)]

**1.本学の概要**

本学は1974年4月に開学しました。栃木県の南部、宇都宮市に隣接する壬生町に立地する本学は病床数1,167床を有し、恵まれた自然環境に加え茨城県から群馬県を繋ぐ北関東自動車道の壬生ICより2分という交通の利便性から、栃木県の重要な医療拠点として機能しております。さらに、2010年1月から栃木県のドクターヘリが当院を基地病院に運航開始され、栃木県および北関東3県の地域救急医療の拠点として、当科でも消化管出血などの腹部救急疾患を積極的に受け入れています。

**2.消化器内視鏡センター**

2015年5月に消化器内視鏡センターが新棟（教育医療棟）へ移転・拡充し、現在検査室6室（治療室2室、レーザー治療室1室を含む）、X線透視下検査室2室で稼働しております。

**光源・プロセッサーシステム：**

・OLYMPUS社製：EVIS LUCERA 5台、EVIS LUCERA ELITE 3台

・富士フィルムメディカル社製：LASEREO 2台

**スコープ：**

・OLYMPUS社製：上部25本、下部16本、十二指腸スコープ5本、シングルバルーン内視鏡2本

・富士フィルムメディカル社製：上部5本、ダブルバルーン内視鏡3本

**カプセル内視鏡システム：**

・Medtronic社製：PillCam®ワークステーション、レコーダーDR3 3台、SB3カプセル内視鏡システム、COLON2カプセル内視鏡システム

上記機器を備え、消化器内科、外科（第一・第二）、健康管理科を中心に年間検査件数は1万件を超えます。2015年度の総検査件数は10,865件、うち治療内視鏡件数は3,096件、緊急内視鏡検査は1,208件でした。当院の特徴として胆道・

図1　獨協医科大学病院

図2　消化器内視鏡センター

膵疾患に対する検査･処置の割合が高く、2015年度はのべ694件のERCPとのべ829件のERCP関連治療手技を行いました。

### 3.カプセル内視鏡検査

当院では、Given Imaging社製カプセル内視鏡PillCam®SB日本導入のための臨床試験で2003年1月に小腸カプセル内視鏡(SBCE)システムをいち早く導入し、2007年10月「原因不明の消化管出血」に対し保険適応開始となってから小腸疾患やOGIBの診断を中心に年間80-100症例前後の検査を行っています。パテンシーカプセル導入後は、小腸病変を有するクローン病症例に対しても積極的に行われています。

小腸出血が疑われる症例の場合、SBCEで病変を確認後バルーン小腸内視鏡検査で診断確定、可能ならば治療を行うストラテジーで診療を行っています。2015年度は消化器内科入院症例のうち小腸出血･OGIB症例は65例、小腸クローン病は57例、その他の小腸疾患(腫瘍、狭窄など)は18例、外来患者を含めた年間のSBCE件数はのべ81件、バルーン小腸内視鏡検査件数はのべ130件でした。

2014年からは大腸カプセル内視鏡検査(CCE)も導入しており、IBD診療を中心に行っております。

**･当院におけるカプセル内視鏡検査の問題点**

現在、近隣の医療機関で小腸疾患に対する精査可能な施設が限られているため、小腸疾患が疑われる症例が栃木県内のみならず群馬県、茨城県、埼玉県の一部からも当科へご紹介され、精査を行っている状況です。遠方からでは通院での精査が困難ですが、当院では重症例以外の速やかな入院ベッドの確保が困難な場合が多く、SBCEを行うまでに日数を要するなど、問題点が多く存在します。特に抗血栓薬や非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)、低用量アスピリン(LDA)などの薬剤性粘膜傷害など、早急な検査と正確な読影による診断を必要とする症例が増加傾向にあります。当院では読影支援技師が不在で全ての読影を検査施行医が担当するため、読影結果が一定の水準を保てるという利点がある一方、読影の負担が大きく検査件数の制限やレポート作成までに時間がかかるといった問題が生じています。読影支援技師･検査医師の育成や、近隣施設とのネットワークシステムの構築により、一層効率的で質の高い検査を提供できる環境を早急に整備する必要があると考えます。

**獨協医科大学消化器内科スタッフ（第12回日本消化管学会総会学術集会にて）**

# 小腸・大腸カプセル内視鏡セミナーの開催報告と今後の予定

読影トレーニング委員会委員長
獨協医科大学医療情報センター長 教授
**中村 哲也**

カプセル内視鏡は、小腸あるいは大腸カプセルが撮影した消化管内腔の画像を、専用の読影用ソフトウェア（以下、ソフト）を用いてビデオ画像あるいは静止画像として読影し、診断に結びつけます。コヴィディエン・メドトロニック（旧ギブン・イメージング）社製小腸カプセル内視鏡用の読影ソフトを例にあげると、2003年に獨協医科大学を中心として行われた治験の際にはRAPID（reporting and processing of images and data）version 3が使用されていました。それが、現在ではversion 8.3にバージョンアップされています。以前は、RAPID readerというソフトがあり、個人のパソコンにインストールすることで読影が可能でした。しかし2014年から施行された改正薬事法により、RAPID readerなどの読影用ソフトは単体で使用することができなくなりました。そのため、当委員会主催の読影セミナーにおける募集人員が50名（ソフトをインストール済みのワークステーション50台分）に限定されたという経緯があります。一方、当委員会では読影トレーニング用に小腸eラーニングおよび大腸eラーニングシステムを構築し、運用しています。しかし、その運用維持およびコンテンツの改訂が、諸般の事情から困難になってきました。

そこでこれらの対応策について当委員会において検討し、JACE理事会で審議した結果、以下のことが決定しました。

**1．地方開催の大腸セミナーの中止**

一通り全国各地で開催されたことと財政的な諸問題のため、今後は地方開催の大腸セミナーは中止します。

**●表　2016年～2017年カプセル内視鏡セミナー開催歴および予定（2016年12月15日現在）**

**小腸カプセル内視鏡セミナー**

（所属・敬称 略）

| | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2016年 | 第7回小腸読影セミナー（終了） | 2月27日（土） | 13:30～17:00 | 東京 | 50 | 49 | 藤森 俊二 | 遠藤 宏樹 | 加藤 智弘 | 林田 真理 | 山田 篤生 |
| | 第8回小腸読影セミナー（終了） | 7月24日（日） | 13:30～17:00 | 東京 | 50 | 23 | 藤森 俊二 | 大宮 直木 | 林田 真理 | 山田 篤生 | |

（所属・敬称 略）

| | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2017年（予定） | 第9回小腸読影セミナー | 2017年 7月30日（日）予定 | 13:30～17:00 | 東京 | 50 | — | 勝木 伸一 | 未 定 |

**大腸カプセル内視鏡セミナー**

（所属・敬称 略）

| | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2016年 | 中国・四国ブロック（終了） | 3月13日（日） | 9:00～17:00 | 岡山 | 20 | 10 | 塩谷 昭子 | 岡 志郎 | 川野 誠司 | 小林 三善 | |

（所属・敬称 略）

| | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2017年 | 大腸読影セミナー | 2017年 1月15日（日） | 10:00～17:00 | 大阪 | 50 | — | 渡辺 憲治 | 江崎 幹宏 | 能田 貞治 | 川野　誠司 | |

（所属・敬称 略）

| | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2018年（予定） | 大腸読影セミナー | 2018年 1月～3月（予定） | 10:00～17:00 | 東京 | 50 | — | 加藤 智弘 | 未 定 |

**技師向け内視鏡セミナー**

（所属・敬称 略）

| | | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2016年 | 第9回JACE学術集会 | 小腸 | 2月28日（日） | 13:30～15:00 | 東京 | 100 | 50 | 中村 哲也 | 渡部 宏嗣 | | |
| | | 大腸 | 2月28日（日） | 15:30～17:00 | 東京 | 100 | 50 | 中村 哲也 | 能田 貞治 | | |
| | 日本消化器内視鏡技師会 | 小腸 | 5月14日（土） | 13:40～15:40 | 大阪 | 50 | 42 | 中村 哲也 | 能田 貞治 | | |

**認定制度更新対象者向けセミナー（講演会形式）**

（所属・敬称 略）

| | | | 日 程 | 時 間 | 場 所 | 募集人数 | 参加人数 | 責任者 | 講 師 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2017年 | 更新対象者向けセミナー（資格更新対象者のみ） | 小腸 | 2017年 2月19日（日） | 9:00～11:00 | 第10回 JACE学術集会会場（名古屋） | 100 | — | 藤森 俊二 | 半田 修 | 林田 真理 | 岡 志郎 |
| | | 大腸 | | 14:00～16:00 | | 100 | — | 加藤 智弘 | 齋藤 彰一 | 細江 直樹 | 角川 康夫 |

**2．読影セミナー（50名限定）を初学者・新規認定申請者向けに位置づける**

今後開催する医師向けのワークステーションを用いた読影セミナーは、「初学者・新規認定申請者向け」と位置づけ、年に2回（小腸、大腸各１回）開催します。

**3．講演会形式の「認定制度更新対象者向けセミナー」開催**

JACE学術集会会期中に、認定制度「認定医」「指導医」「読影支援技師」更新時のみ有効とする受講証明書を発行します。

なお「認定制度更新対象者向けセミナー」については、以下の注意点があります。

①認定期間中（５年間）に「小腸」１回「大腸」各１回の受講証明書を、認定資格更新要件提出物「小腸用・大腸用カプセル内視鏡セミナー受講証明書（もしくはｅラーニング受講修了証）（写）」と同等とみなします。

②2016年度更新対象者のうち、未更新の21名については、今回限りの特例として第10回JACE学術集会時の同セミナー受講証明書を更新要件提出物に充当します。

③医師以外の参加希望者も受講可とします。

④セミナー途中退席者には、受講証明書を発行しません。

なお、認定制度更新対象者向けセミナー開始に伴い、第9回JACE学術集会会期中に行った形式の技師向け内視鏡セミナーは終了させていただくことになりましたので、ご了承の程どうかよろしくお願い申しあげます。

表に、2016年～2017年カプセル内視鏡セミナー開催歴および予定を示します。各セミナーの募集要項などについては順次学会ホームページなどでお知らせしますので、ご確認の程どうかよろしくお願い申しあげます。

**午前開催**

## 認定制度更新対象者向けセミナー・小腸

■日　時：2017年2月19日（日）**<午前開催> 9:00～11:00**
■場　所：名古屋国際会議場（第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会内 第3会場）名古屋市熱田区熱田西町1番1号
■定　員：100名予定
■参加費：各セミナー 5,000円　※所属学会員・準学会員「認定医」「指導医」「読影支援技師」限定

■司　会：藤森 俊二 先生（日本医科大学千葉北総病院 消化器内科）
■講　師：半田 修 先生（京都府立医科大学 消化器内科）
林田 真理 先生（杏林大学医学部附属病院 第三内科）
岡 志郎 先生（広島大学病院 内視鏡医学内視鏡診療科）

**午後開催**

## 認定制度更新対象者向けセミナー・大腸

■日　時：2017年2月19日（日）**<午後開催>14:00～16:00**
■場　所：名古屋国際会議場（第10回日本カプセル内視鏡学会学術集会内 第3会場）名古屋市熱田区熱田西町1番1号
■定　員：100名予定
■参加費：各セミナー 5,000円　※所属学会員・準学会員「認定医」「指導医」「読影支援技師」限定

■司　会：加藤 智弘 先生（東京慈恵会医科大学大学院 消化器内科学）
■講　師：齋藤 彰一 先生（がん研有明病院　消化器センター）
細江 直樹 先生（慶應義塾大学医学部附属病院 内視鏡センター）
角川 康夫 先生（国立がんセンター中央病院 検診開発研究部）

# 認定審査結果報告および今後の認定医申請スケジュール

日本カプセル内視鏡学会 認定制度委員会委員長
弘前大学医学部附属病院 病院長
**福田 眞作**

2012年4月、一般社団法人日本カプセル内視鏡学会(JACE)の発足と同時に本学会の認定制度がスタートしました。平成27年度の新規申請審査結果ならびに暫定措置、特例措置により誕生した認定医、指導医、指導施設の更新審査結果をお知らせいたします。認定数は以下の通りです。

**認定医**:新規50名(CE研修認定15名含む)、更新22名

**指導医**:新規11名、更新128名

**指導施設**:新規3施設、更新73施設

認定医をお持ちの常勤医師の人事異動に伴い、残念ながら指導施設の資格を更新できない施設がございました。また、指導施設に勤務していない先生方向けに設けたCE研修認定による暫定措置も十分には活用されていないようで、今回も15名しか申請がありませんでした。この暫定措置も、次回が最終となる予定です。このニュースレターがお手元に届く頃にはすでに締め切りとなっておりますが、多くの先生方からの申請があるよう祈っているところです。

カプセル内視鏡がより診断制度の高い検査法として定着するためには、指導施設の充実が不可欠であり、そのためにも認定医を増やすことが急務です。今回、50名の認定医が新たに誕生しましたが、まだまだ不十分であり、認定医を増やすためのさらなる工夫が必要であると痛感しております。現在、認定制度委員会において、CE研修認定に代わる措置を検討しています。順次、ホームページ、ニュースレターでアナウンスして参ります。

さて、認定医、指導医および読影支援技師の更新に関して、新たな動きがありますのでご案内いたします。読影トレーニング委員会からの提案によるものですが、「認定医・指導医および読影支援技師の更新対象者向けセミナー」をカプセル内視鏡学会学術集会時に行い、その受講証明書が更新申請の際に利用可能となります。私が2017年2月に名古屋で担当する第10回JACE学術集会で、初回の「認定医・指導医および読影支援技師の更新対象者向けセミナー」が開催されます。更新を控えている先生方、読影支援技師の皆さんは是非とも受講ください。

今後の認定医申請スケジュールについては以下の通りとなっています。更新に関しては、2014年2月取得の暫定認定医・暫定指導医・暫定指導施設が該当します。すでにメール等でご案内と思いますが、忘れずに申請いただきますようお願いいたします。

**認定医申請スケジュールは以下の通りです**

**新規申請(2017年)**

| | |
|---|---|
| 2016年10月 1日 | CE研修認定申請 受付開始 |
| 2016年11月30日 | CE研修認定申請 締切り |
| 2017年 2月 1日 | CE研修認定 発表 |
| 2017年 1月 1日 | 新規申請書類 受付開始 |
| 2017年 3月31日 | 新規申請 締切り |
| 2017年 8月 | 認定書発行 |

**更新申請(2017年)**

| | |
|---|---|
| 2014年 2月 | 取得の暫定認定医・暫定指導医・暫定指導施設 |
| 2017年 1月 1日 | 更新申請書類 受付開始 |
| 2017年 3月31日 | 更新申請 締切り |
| 2017年 8月 | 認定書発行 |

**掲載一覧は2016年8月1日時点のものです。最新情報はホームページをご確認下さい。**

## 2016年度 認定医 更新(22名)

| | |
|---|---|
| 小嶋 融一 | 阪和住吉総合病院 |
| 岡　寛章 | 特定医療法人光寿会城陽江尻病院 |
| 酒井 英嗣 | ＮＴＴ東日本関東病院 |
| 福生 有華 | 越谷市立病院 |
| 鳥井 淑敬 | 藤田保健衛生大学 |
| 山田 篤生 | 東京大学医学部附属病院 |
| 村山 貴信 | 宮﨑医療センター病院 |
| 亘　育江 | 横浜市立大学付属病院 |
| 前田 光德 | 独立行政法人国立病院機構宇都宮病院 |
| 今川 宏樹 | 呉医療センター･中国がんセンター |
| 髙橋 裕司 | 岐阜赤十字病院 |
| 三浦 みき | 杏林大学医学部付属病院 |
| 櫻井 俊之 | 国立国際医療研究センター |
| 河合 幹夫 | 兵庫医科大学病院 |
| 野上 晃司 | ＫＫＲ高松病院 |
| 小形 典之 | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 日暮 琢磨 | 横浜市立大学付属病院 |
| 能田 貞治 | 大阪医科大学 |
| 角川 康夫 | 国立がん研究センター中央病院 |
| 石原 慎一 | 石原消化器内科クリニック |
| 大野 亜希子 | 杏林大学医学部付属病院 |
| 小林 由佳 | 東京大学医学部附属病院 |

## 2016年度 認定医 新規（50名）

| | |
|---|---|
| 長谷川 大祐 | 京都府立医科大学附属病院 |
| 奥田 孝太郎 | 京都九条病院 |
| 坂本 博次 | 自治医科大学附属病院 |
| 金山 兼司 | 社会保険稲築病院 |
| 岸　遂忠 | JCHO 群馬中央病院 |
| 南　信弘 | 熊本赤十字病院 |
| 柴峠 光成 | 高松赤十字病院 |
| 西村　守 | 岡山市立市民病院 |
| 辻川 知之 | 国立病院機構東近江総合医療センター |
| 松井　啓 | 虎の門病院 |
| 中村 正克 | 金沢医科大学 |
| 小林 泰輔 | 埼玉医科大学総合医療センター |
| 園田　光 | 大分大学医学部附属病院 |
| 中川 義仁 | 藤田保健衛生大学 |
| 桑田　剛 | 都立駒込病院 |
| 小野 尚子 | 北海道大学病院 |
| 船越 信介 | 東京都済生会中央病院 |
| 山口 明香 | 昭和大学病院 |
| 石田　司 | 神戸大学病院 |
| 松村 健三 | まつむら胃腸科 |
| 江坂 直樹 | 国立病院機構京都医療センター |
| 岡川　奏 | 北海道がんセンター |
| 中村 洋典 | 東京医科大学八王子イリョウセンター |
| 奥平　尊 | 大阪医科大学附属病院 |
| 深田 憲将 | 関西医科大学附属枚方病院 |
| 新倉 量太 | 東京大学医学部附属病院 |
| 岡本 雄貴 | 岡山済生会総合病院 |
| 中村 久美子 | 兵庫医科大学 |
| 堀田 欣一 | 静岡県立静岡がんセンター |
| 大森 崇史 | 藤田保健衛生大学 |
| 高嶋 志保 | 岡山大学病院 |
| 中島 淳太 | 帯広厚生病院 |
| 宮川 麻希 | 札幌厚生病院 |
| 那須野 正尚 | JA 北海道厚生連　札幌厚生病院 |
| 井川　敦 | 広島大学病院 |
| 山崎 之良 | 宝塚市立病院 |
| 増井 竜太 | 愛知医科大学病院 |
| 小野澤 由里子 | 京都府立医科大学 |
| 西嶋 健一 | 医療法人 原三信病院 |
| 谷口 雅人 | 小笠原クリニック札幌病院 |
| 平賀 典子 | 弘前大学医学部附属病院 |
| 大森 沙織 | 岩見沢市立総合病院 |
| 郡司 直彦 | 福島県立医科大学医学部 |
| 松島 加代子 | 長崎大学病院 |
| 宮嵜 孝子 | 兵庫医科大学病院 |
| 小澤　広 | JA 北海道厚生連　札幌厚生病院 |
| 中川 倫夫 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 鎌野 俊彰 | 藤田保健衛生大学 |
| 吉村　透 | 名古屋セントラル病院 |
| 南條 宗八 | 富山大学附属病院 |

## 2016年度 指導医 更新(128名)

| | |
|---|---|
| 豊田 英樹 | ハッピー胃腸クリニック |
| 阿部　孝 | 宝塚市立病院 |
| 檜垣 真吾 | 聖比留会セントヒル病院 |
| 鮫島 由規則 | 鮫島病院 |
| 石橋 陽子 | ＫＫＲ札幌医療センター |
| 金城　渚 | 琉球大学医学部附属病院 |
| 福田 眞作 | 弘前大学医学部附属病院 |
| 久保 公了 | 神戸労災病院 |
| 宮谷 博幸 | 自治医科大学さいたま医療センター |
| 金城 福則 | 社会医療法人 仁愛会　浦添総合病院 |
| 半田　修 | 京都府立医科大学 |
| 松本 主之 | 岩手医科大学附属病院 |
| 梅垣 英次 | 神戸大学大学院医学研究科 |
| 中澤　敦 | 東京都済生会中央病院 |

| | |
|---|---|
| 遠藤　豊 | 大船中央病院　消化器･IBDセンター |
| 大澤　恵 | 浜松医科大学医学部附属病院 |
| 横山 純二 | 新潟大学医歯学総合病院 |
| 酒井 明人 | 富山県立中央病院 |
| 佐々木 誠人 | 愛知医科大学 |
| 鈴木 貴久 | トヨタ記念病院 |
| 光藤 章二 | 医療法人同人会京都九条病院 |
| 矢野　豊 | 福岡大学筑紫病院 |
| 林　芳和 | 自治医科大学 |
| 細江 直樹 | 慶應義塾大学医学部内視鏡センター |
| 田尻 久雄 | 東京慈恵会医科大学 |
| 藤森 俊二 | 日本医科大学千葉北総病院 |
| 松橋 信行 | NTT東日本関東病院 |
| 野崎 良一 | 高野病院 |
| 河村 晴信 | 小田原市立病院 |
| 藤原 靖弘 | 大阪市立大学大学院 |
| 朝倉　均 | こうかんクリニック |
| 土山 寿志 | 石川県立中央病院 |
| 城　浩介 | 総合上飯田第一病院 |
| 緒方 晴彦 | 慶應義塾大学医学部内視鏡センター |
| 新井　修 | 一般社団法人倉敷成人病センター |
| 岩瀬 弘明 | 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター |
| 水野 滋章 | 日本大学医学部附属板橋病院 |
| 石川 英樹 | ＫＫＲ東海病院 |
| 中路 幸之助 | 医療法人愛晋会中江病院 |
| 片岡 洋望 | 名古屋市立大学病院 |
| 小西 英幸 | 京都府立医科大学 |
| 米島　學 | 市立敦賀病院 |
| 引地 拓人 | 福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部 |
| 野内 俊彦 | 公立昭和病院 |
| 栗山　仁 | 茅ヶ崎市立病院 |
| 清水 慎一 | 岡山労災病院 |
| 児玉 眞由美 | 宮﨑医療センター病院 消化器･肝臓病センター |
| 川野 誠司 | 岡山大学病院 |
| 小川　修 | 虎の門病院（退職） |
| 沖本 忠義 | 大分大学医学部附属病院 |
| 永瀬　肇 | 横浜労災病院 |
| 柳澤 秀之 | ＪＡ北海道厚生連 帯広厚生病院 |
| 矢田 親一朗 | 遠賀中間医師会 おんが病院 |
| 篠村 恭久 | 市立池田病院 |
| 辻　宏和 | 金沢市立病院 |
| 白枝 久和 | 金沢医科大学 |
| 土島　睦 | 金沢医科大学 |
| 宇野 昭毅 | JCHO 横浜中央病院 |
| 時岡　聡 | 第一東和会病院 |
| 高尾 雄二郎 | 赤穂市民病院 |
| 宮田 章弘 | 小牧市民病院 |
| 串山 義則 | 松江赤十字病院 |
| 生沼 健司 | 獨協医科大学 |
| 佐川　保 | 国立病院機構 北海道がんセンター |
| 吉村 大輔 | 福岡県済生会福岡総合病院 |
| 中畑 孔克 | 大阪医科大学区三島南病院 |
| 原田 直彦 | 国立病院機構九州医療センター |
| 今枝 博之 | 埼玉医科大学病院 |
| 藤浪　斗 | 富山大学附属病院 |
| 坂本　長逸 | 医療法人社団行徳会 |
| 榊　信廣 | 公益財団法人 早期胃癌検診協会 |
| 新原　亨 | 公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院 |
| 田中 信治 | 広島大学病院 |
| 安田 光徳 | 一般財団法人甲南会 甲南病院 |
| 加賀谷 尚史 | 金沢医療センター |
| 前田 哲男 | 川崎病院 |
| 中野　雅 | 北里大学北里研究所病院 |
| 冨樫 一智 | 福島県立医科大学会津医療センター |
| 駒澤 慶憲 | 出雲市立総合医療センター |
| 大塚 和朗 | 東京医科歯科大学 |
| 金森 信一 | 一宮市立市民病院 |
| 八島 一夫 | 鳥取大学医学部附属病院 |
| 渡部 宏嗣 | 若宮渡部医院 |
| 黒岩 正憲 | 公立陶生病院 |
| 岸川　浩 | 東京歯科大学市川総合病院 |
| 吉井 重人 | 浜松医療センター |
| 内藤 裕二 | 京都府立医科大学附属病院 |
| 岩本 淳一 | 東京医科大学茨城医療センター |
| 澁谷 智義 | 順天堂大学医学部 |
| 伊藤　守 | 岡山済生会総合病院 |
| 小山田 裕一 | 松下記念病院 |
| 藤田 朋紀 | 小樽掖済会病院 |
| 中堀 昌人 | 仙台厚生病院 |
| 松坂 浩史 | 原三信病院 |
| 加藤 智弘 | 東京慈恵会医科大学大学院 |
| 大久保 理恵 | 日本大学病院 |
| 井上　泉 | 和歌山県立医科大学 |
| 溝上 裕士 | 筑波大学附属病院 |
| 塩谷 昭子 | 川崎医科大学 |
| 蔵原 晃一 | 松山赤十字病院 |
| 今井 幸紀 | 埼玉医科大学 |
| 平本 智樹 | 県立広島病院 |
| 中村 哲也 | 濁協医科大学病院 |
| 若松 隆宏 | 関西医科大学附属 滝井病院 |
| 前田 征洋 | 社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 |
| 春間　賢 | 川崎医科大学附属 川崎病院 |
| 加藤 元嗣 | 国立病院機構函館病院 |
| 樋口 和秀 | 大阪医科大学 |
| 矢野 智則 | 自治医科大学 |
| 渡辺 憲治 | 大阪市立大学 |
| 中村 志郎 | 兵庫医科大学病院 |
| 佐藤 康史 | 札幌医科大学 |

| | |
|---|---|
| 奈良坂 俊明 | 筑波大学医学医療系 |
| 竹田　晃 | 市立詩芦屋病院 |
| 島谷 昌明 | 関西医科大学 |
| 中島　淳 | 横浜市立大学 肝胆膵消化器病学教室 |
| 大塚 泰郎 | 半田市立半田病院 |
| 若林 直樹 | 大津市民病院 |
| 吉野 守彦 | 朝霞台中央総合病院 |
| 大前 芳男 | 川崎幸病院 |
| 荒木 昭博 | 東京医科歯科大学長寿健康人生推進センター |
| 万波 智彦 | 公立学校共済組合中国中央病院 |
| 赤星 和也 | (株)麻生 飯塚病院 |
| 竹内　健 | 東邦大学医療センター佐倉病院 |
| 小林 三善 | 国家公務員共済組合連合会 高松病院 |
| 江崎 幹宏 | 九州大学病院 |
| 加藤 公敏 | 日本大学医学部医学研究企画推進室、日本大学医学部付属板橋病院 |
| 大宮 直木 | 藤田保健衛生大学 |

## 2016年度 指導施設 更新(73施設)

| | |
|---|---|
| 栗山　仁 | 茅ヶ崎市立病院 |
| 阿部　孝 | 宝塚市立病院 |
| 石橋 陽子 | ＫＫＲ札幌医療センター |
| 河野 友彰 | 兵庫医科大学病院 |
| 中澤　敦 | 東京都済生会中央病院 |
| 大澤　恵 | 浜松医科大学医学部附属病院 |
| 金城　渚 | 琉球大学医学部附属病院 光学医療診療部 |
| 中島　淳 | 横浜市立大学附属病院 |
| 荒川 哲男 | 大阪市立大学医学部附属病院 |
| 光藤 章二 | 医療法人同人会京都九条病院 |
| 松橋 信行 | NTT東日本関東病院 |
| 野崎 良一 | 高野病院消化器内科 |
| 河村 晴信 | 小田原市立病院 |
| 土山 寿志 | 石川県立中央病院 |
| 内藤 裕二 | 京都府立医科大学附属病院 |
| 福田 眞作 | 弘前大学医学部附属病院 |
| 城　浩介 | 総合上飯田第一病院 |
| 炭山 和毅 | 東京慈恵会医科大学附属病院 |
| 細江 直樹 | 慶應義塾大学病院内視鏡センター |
| 岩瀬 弘明 | 国立病院機構名古屋医療センター |
| 片岡 洋望 | 名古屋市立大学病院 |
| 引地 拓人 | 公立大学法人福島県立医科大学附属病院 |
| 中村 正直 | 名古屋大学医学部附属病院消化器内科 |
| 野内 俊彦 | 公立昭和病院 |
| 今枝 博之 | 埼玉医科大学病院内視鏡検査治療センター |
| 矢野 智則 | 自治医科大学附属病院 |
| 児玉 眞由美 | 宮崎医療センター病院 |
| 川野 誠司 | 岡山大学病院 |
| 松井　啓 | 虎の門病院 |
| 沖本 忠義 | 大分大学医学部附属病院 |
| 田中　周 | 日本医科大学附属病院 |
| 北村 和哉 | 金沢大学附属病院 |
| 辻　宏和 | 金沢市立病院 |
| 土島　睦 | 金沢医科大学 |
| 高尾 雄二郎 | 赤穂市民病院 |
| 串山 義則 | 松江赤十字病院 |
| 山田 篤生 | 東京大学医学部附属病院 |
| 原田 直彦 | 国立病院機構 九州医療センター |
| 藤波　斗 | 富山大学附属病院 |
| 米島　學 | 市立敦賀病院 |
| 田中 信治 | 広島大学病院 |
| 中野　雅 | 北里大学北里研究所病院 |
| 冨樫 一智 | 福島県立医科大学会津医療センター附属病院 |
| 駒澤 慶憲 | 出雲市立総合医療センター |
| 大塚 和朗 | 東京医科歯科大学医学部附属病院 |
| 八島 一夫 | 鳥取大学医学部附属病院 |
| 黒岩 正憲 | 公立陶生病院 |
| 岸川　浩 | 東京歯科大学市川総合病院 |
| 原澤 尚登 | 日本大学医学部附属板橋病院 |
| 吉井 重人 | 浜松医療センター |
| 澁谷 智義 | 順天堂大学 |
| 小山田 裕一 | 松下記念病院 |
| 藤田 朋紀 | 小樽掖済会病院 |
| 井上　泉 | 和歌山県立医科大学 |
| 松坂 浩史 | 原三信病院 |
| 大久保 理恵 | 日本大学病院 |
| 塩谷 昭子 | 川崎医科大学附属病院 |
| 蔵原 晃一 | 松山赤十字病院 |
| 伊藤　守 | 岡山済生会総合病院 |
| 矢田 親一朗 | 遠賀中間医師会　おんが病院 |
| 中村 哲也 | 獨協医科大学病院 |
| 中本 安成 | 福井大学医学部附属病院 |
| 樋口 和秀 | 大阪医科大学 消化器内科 |
| 金子　剛 | 筑波大学附属病院 |
| 竹田　晃 | 市立芦屋病院 |
| 島谷 昌明 | 関西医科大学附属病院 |
| 江崎 幹宏 | 九州大学病院 |
| 吉野 守彦 | 朝霞台中央総合病院 |
| 中堀 昌人 | 一般財団法人 厚生会 仙台厚生病院 |
| 二宮 風夫 | 福岡大学筑紫病院 |
| 岩切 龍一 | 佐賀大学医学部附属病院 |
| 新井 誠人 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 林田 真理 | 杏林大学医学部附属病院 |

## 2016年度 指導施設 新規(3施設)

| | |
|---|---|
| 金城 福則 | 社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院 |
| 梅垣 英次 | 神戸大学大学院医学研究科 消化器内科 |
| 若松 隆宏 | 関西医科大学附属滝井病院 |

## 2016年度 小腸読影支援技師 新規(62名)

| | |
|---|---|
| 岡田 修一 | 聖路加国際病院 |
| 長谷川 義幸 | 名古屋市立大学病院 |
| 満尾 裕子 | 霧島市立医師会医療センター |
| 武原 真一 | 有田胃腸病院 |
| 船田 美和 | 市立宇和島病院 |
| 山下 順子 | 霧島市立医師会医療センター |
| 植木 光代 | 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター |
| 前田 繁信 | 藤田保健衛生大学病院 |
| 前川 友里 | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 渡辺 昌子 | 自治医科大学 |
| 大野 陽子 | 岐阜赤十字病院 |
| 松尾 孝賢 | 公立大学法人　京都府立医科大学 |
| 加茂 初美 | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 大波多 歳男 | 大分三愛メディカルセンター |
| 泉山 美樹 | 仙台厚生病院 |
| 海老名 麻美 | 弘前大学医学部附属病院 |
| 山田 安希 | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 鈴木 有里乃 | 三重大学医学部附属病院 |
| 山田 ゆき江 | 福島県立医科大学附属病院 |
| 吉田 糸野 | 山形済生病院 |
| 山田 加代子 | 山形済生病院 |
| 村上 優賀里 | 聖路加国際病院 |
| 浅野 寿恵 | 名古屋第一赤十字病院 |
| 安部 龍一 | 井上病院 |
| 久保 慎太郎 | 高槻赤十字病院 |
| 中田 祐二 | 高槻赤十字病院 |
| 板垣 和美 | 東京女子医科大学病院 |
| 田沢 美春 | 秋田県総合保健センター |
| 斎藤 さち | 昭和大学横浜市北部病院 |
| 間藤 未佳 | 大分三愛メディカルセンター |
| 横山 真里南 | 医療法人潤愛会　鮫島病院 |
| 大迫　翔 | 公益財団法人 今給黎総合病院 |
| 久保田 智勢 | 益田赤十字病院 |
| 藤枝 小希子 | 社会医療法人財団石心会 川崎幸病院 内視鏡センター |
| 小栗 弘光 | 医療法人 北晨会 恵み野病院 |
| 徳永 裕美 | 東京女子医科大学病院 |
| 松岡　恵 | 聖路加国際病院 |
| 山口 美香 | 一般社団法人オリエンタル労働衛生協会メディカルクリニック |
| 坪内 志保 | 聖路加国際病院 |
| 北野 外美恵 | やわたメディカルセンター |
| 小川 三恵子 | ブラザー記念病院 |
| 今城 朱梨 | 岡山大学病院 |
| 西　憲文 | 鹿児島厚生連病院 |
| 鵜沼 清仁 | JCOH 東京山手メディカルセンター |
| 竹内 久美子 | 聖路加国際病院附属クリニック予防医療センター |
| 村上 博行 | 国立がん研究センター中央病院 |
| 小野 早織 | 市立敦賀病院 |
| 坊　直美 | 市立敦賀病院 |
| 萩原 純久 | JA鹿児島県厚生連 |
| 伊藤 恵美子 | 仙台厚生病院 |
| 廣澤　緑 | 辻仲病院　柏の葉 |
| 島田 香織 | 国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 |
| 山元 真貴子 | 今給黎総合病院 |
| 野城 和彦 | JA北海道厚生連 札幌厚生病院 |
| 島崎　洋 | 札幌厚生病院 |
| 金子 順子 | 国立がん研究センター　中央病院 |
| 藤本 邦弘 | 愛媛大学医学部附属病院 |
| 鈴木　隆 | ＪＡ北海道厚生連 札幌厚生病院 |
| 川上 智浩 | ＪＡ北海道厚生連 札幌厚生病院 |
| 磯本 泰輔 | 兵庫医科大学病院 |
| 大坪 洋輔 | 札幌厚生病院 |
| 稲垣 景司 | 三井記念病院 |

## 2016年度 大腸読影支援技師 新規(21名)

| | |
|---|---|
| 武原 真一 | 有田胃腸病院 |
| 斎藤 さやか | 辻仲病院 柏の葉 |
| 浅野 寿恵 | 名古屋第一赤十字病院 |
| 田沢 美春 | 秋田県総合保健センター |
| 永濱 元続 | 兵庫医科大学病院 |
| 藤谷 信吾 | 社会医療法人長崎記念病院 |
| 三浦 恵理加 | 東京女子医科大学病院 |
| 蓮沼 順子 | 東京女子医科大学病院 |
| 丸山 大輔 | 辻仲病院 柏の葉 |
| 川上 美里 | 医療法人 正幸会 正幸会病院 |
| 岸本 憲太 | 医療法人至捷会 木村病院 |
| 浅井 寛人 | 兵庫医科大学病院 |
| 首藤　崇 | トヨタ記念病院 |
| 長谷川 義幸 | 名古屋市立大学病院 |
| 高橋 篤志 | 兵庫医科大学病院 |
| 中野 智彦 | 兵庫医科大学病院 |
| 永田 かほり | 大分大学医学部附属病院 |
| 磯本 泰輔 | 兵庫医科大学病院 |
| 北野 外美恵 | やわたメディカルセンター |
| 稲田 智絵 | やわたメディカルセンター |
| 井口 和也 | JA北海道厚生連 旭川厚生病院 |

# 日本カプセル内視鏡学会 入会案内

## 会員登録方法

### 現会員様へ

既存の会員様へは新しいウェブサイトへアカウントを再登録するための仮パスワードをメールおよび郵送にてお送りいたします。
そちらに従って移行をお済ませください。

### 新規ユーザー登録方法

1. 新規ユーザー登録画面より**パソコンで受信できるアドレス**をご登録ください。
新規ユーザー登録画面は「ホーム」→「入会案内」→「新規ユーザー登録」の順となります。

2. **「[日本カプセル内視鏡学会]ユーザー登録ページのご案内」**というタイトルのメールをご登録いただいたアドレスに自動返信いたします。その指示に従い、ユーザー登録をお願いいたします。

3. 事務局にてご登録内容を確認し、承認が完了いたしましたら、改めてメールにてご連絡いたします。
**承認手続き中はログインすることができません。**
承認完了の通知メールが届くまで、しばらくお待ちください。

**https://the-jace.org/joinus/**

# 編集後記

日本カプセル内視鏡学会会員の先生方には、平素より学会に対し格別のご支援・ご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。日本カプセル内視鏡学会のニュースレターVol.12の発行にあたり、情報委員会委員長後藤秀実教授のもと実務委員を務めております中村正直(名古屋大学消化器内科)より編集後記として述べさせて頂きます。

先ずニュースレターVo1.12も今までと同様、会員の皆様方のご協力により充実した内容で発行できましたことを御礼申し上げます。次回のJACE学術集会は名古屋で行われ、節目の第10回となります。そこで第1回学術集会を主催された坂本長逸先生よりご挨拶を頂戴し、出血を主訴とした小腸潰瘍性病変がテーマであったと共に盛会であったことが思い出されます。第10回の会長福田眞作先生からのご挨拶では読影支援技師へのお心遣いも感じられ、盛会が期待されるお話を頂戴しました。人気コーナーである厳選演題、論文紹介も掲載され、今回も話題性のある発表が実務委員の先生方より為されました。施設紹介では2015年5月に消化器内視鏡センターが新棟へ移転された獨協医科大学を同大学の笹井貴子先生より紹介され、カプセル内視鏡の拠点が更に活性化されることが期待されます。認定医審査結果、認定医申請、更新情報も今一度ご確認頂けますと幸いです。

今後も会員の皆様方に役立つニュースレターを目指したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど宣しくお願い申し上げます。

日本カプセル内視鏡学会
情報委員会実務委員
名古屋大学大学院医学系研究科
消化器内科学助教
**中村 正直**

■ 編集・発行　一般社団法人日本カプセル内視鏡学会　〒113-0033東京都文京区本郷3-3-11 NCKビル5階
TEL:03-5844-6341　FAX:03-5840-6130　E-mail:capsule@the-jace.org　URL:https://the-jace.org/

FUJIFILM
Value from Innovation

# 2つの光が生み出す、「新しい世界」。

# BLI
## Blue LASER Imaging

粘膜表層の微細な血管と腺管構造を描出する
**BLI**（Blue LASER Imaging）

新開発のレーザー光源により
**鮮明な画像を映し出す**

従来光源に比べて大幅な
**省エネ・長寿命を実現**

レーザー光源搭載の新世代内視鏡システム

# LASEREO

販売名：光源装置 LL- 4450　認証番号：223AABZX00062000

富士フイルム メディカル株式会社　〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル　tel.03-6419-8045（代）　http://fms.fujifilm.co.jp